

## 「防災塾・だるま」 10周年のご挨拶

塾長 荏本孝久

「防災塾・だるま」が発足して10年を迎えることになりました。 今も変わらず活発に活動しています。

この間にも多くの被害を伴った地震災害を含む沢山の自然災害が毎年のように発生してきました。

「防災塾・だるま」は1995年阪神・淡路大震災の教訓をもとにして活動を開始した経緯がありますが、地震を始めその他の自然災害が起きるたびに認識が広がり、災害に対する共通する視点を学び取って、防災に対する認識や意識が広がってきているように感じます。

この会はNPO法人でもなく財団などの支援を仰ぐ特殊な団体でもありません。 単なる任意団体で「防災」に興味があり意識の高い方が集まってできた団体です。 当初から、あまり強い活動ルールを決めて活動しようという意識はなく、極めて「緩いつながり」を大切にして、活動を継続させようとの相互の理解のもとにいろいろな活動を展開しています。



この「防災塾・だるま」も会員として登録して下さっている方の数は、時代と共に増えてきて、その活動も次第に社会に認知されてきているように思います。

これは、時代の流れに伴う社会の変化に関係していると思っています。

活動の内容は、本冊子の中に詳しくまとめられています。 読んで行くと、それぞれの時期にどのような意見が交換され、どのように活動してきたかが目に浮かびます。 活動の中で自分自身も大きく成長してきたように感じ、感慨深いものがあります。 それと同時に本塾のような活動が、目に見えないようなところで益々重要になってきているのではないかと感じています。

このような任意団体が活動を10年という長きに亘って継続し、しかも毎月開催している定例会と一般の方々に向けてのオープンな情報提供を続けてきたことは、大変驚くべきことです。本塾の運営と活動に熱心に取り組んで頂いている会員の皆さんに心より感謝申し上げます。

特に、本冊子の編集に尽力下さった方々に深甚の謝意を表したいと思います。



2016年3月